



図書館だより 第57号

2023年(令和5年)8月9日
独立行政法人国立高等専門学校機構
広島商船高等専門学校

— 目 次 —

巻頭言

読書と私……………図書館長 澤田 大吾 (1)

寄稿 <新任教員>

近頃めっきり小説を読まなくなった
……………一般教科 飛田 麻也香 (2)

辞書なしで英語読書ができたなら 図書係 山下 真佑美 (3)

図書館からのお知らせ…………… (4)



【 巻頭言 】

読書と私

図書館長 澤田 大吾

私は今年還暦を迎えました。あっという間の60年でした。子どもの頃と大きく変わったことは、「読書をする」ことだと思います。

小学校の頃は、テレビと雑誌のマンガばかり見ていました。母親からは、「マンガばかり見てないで、少しは本でも読みなさい」と言われるのが日課でした。

高度経済成長のど真ん中に育った私は、小学校4年頃から『少年ジャンプ』(当時80円前後だったと思う)や『少年チャンピオン』を買って読んでいました。特に、「ど根性ガエル」や「トイレット博士」など子ども受けするマンガを掲載している『少年ジャンプ』が好きでした。

しかし、私が週刊漫画を読み始めた小学校4年から5年にかけて、世間ではオイルショックが始まっていました。このため、大好きなマンガの値段が急激に上昇しました。当時の物価上昇を「狂乱物価」といいますが、資源のない日本には宿命的なことでした。それでも『少年ジャンプ』と『少年チャンピオン』は買っていました。ただ小学校6年生くらいになると、中学校受験を意識し始めて、偏差値の高い中学校の入試問題に提出される作家の作品を読み始めました。夏目漱石や芥川龍之介などの文豪は当然読みました。特に、灘中学校や鹿児島ラサール中学校に通う塾の先輩か

ら、「小林秀雄などの随筆を読んでおいた方がいいよ」と言われました。新潮文庫だったと思うけど、言われるがままに小林秀雄の本を買いました。しかし、私には小林秀雄が何を書いているのかまったく理解できませんでした。また夏目漱石の「坊ちゃん」は理解できたけど、漱石の前期三部作とか後期三部作など主人公の心情変化など当時の私には理解できませんでした。(色々な経験をして大人になったら理解できます)読書の何が面白いの?受験のため?というのが小学校時代の思い出です。

高校時代、受験地獄と呼ばれた私たちの世代は、「偏差値が少しでも上の大学に行って、大手企業に入ることこそが幸せになれる」と言われていました。みんな生気のない顔をしていました。「4当5落」なんて言葉もありました。「睡眠時間が4時間以内の人は大学に受かり、5時間以上の人はいどおりの大学に行けない」という迷信のようなものです。当時の高校生はみんな睡眠時間を削って勉強していたと思います。このような時に友人から勧められたのが司馬遼太郎の『竜馬がゆく』でした。全8巻ある文春文庫から出版されている坂本竜馬を題材にした小説です。紹介された時、「誰が8巻もある小説を読むのよ。時間がないわ」と思いながらも、1巻だけ買って本棚に並べていま

した。高校 2 年の定期試験中に、翌日の試験勉強をしなければならなかったのですが、ふと本棚にある『竜馬がゆく』が目にとまり、つい読み始めてしまいました。今思うと、なぜあの時『竜馬がゆく』を手にしたのかよく覚えていません。おそらく試験勉強から逃げたくて読み始めたのかもしれませんが。ただ、この時、私の中で起こった衝撃は今でも忘れることができません。琴線に触れるというか、生まれて初めて「次の本が読みたい」と思わせる本でした。その後、作者である司馬遼太郎の本はすべて読みました。そして坂本竜馬だけでなく幕末に関する他の作家の本もかなり読んだと思います。大学・大学院時代はこれらの場所に旅行を兼

ねて回りました。元々、地元医学部進学を第一希望にしていたのですが、本当に何が勉強したいのかが分かるきっかけになった本でした。以後、本を読まないと落ち着けないようになりました。大学院時代は、母親が「少し本代抑えたら」と言いながら、自分の預貯金を崩しながらも、専門書から様々な本を買う資金を出してくれたことを思い出します。今思うと感謝しかありません。

現在は、私にとってストレス解消が読書です。趣味も多い方ですが、近い将来、本に囲まれながら、プチ農業をして、神社仏閣を参拝して、カーブ・サンフレ・高校野球・日本代表などのスポーツ観戦をすることが普通にできる日が来るのが待ち遠しいのです。



◆◇◆ 寄稿 — 《 新任の先生 》 — ◇◆◆

近頃めっきり小説を読まなくなった

一般教科 飛田 麻也香

子どものころから本、そして図書館が大好きでした。図書館の静かで落ち着いた雰囲気や、古い本やインクの独特な香りに惹かれていたのだと思います。お気に入りの図書館は家から遠く、ときどき車で連れて行ってもらっていました。小学生から高校生までは、学校内外の図書館に入り浸り様々な本を読み漁りました。大学の卒業論文は社会科の教科書をテーマにしていたことから、大学図書館の地下書庫に何か月もこもって、教科書をひたすら読み込みました。このように、これまでの人生の中で、図書館と関わってきた機会は多くあったと感じます。しかしながら、近年の自分を

振り返ると、図書館に行くことは数えるほどしかありませんでした。学術書を買って読むことがメインになり、さらにインターネット上で論文を探して読むことの方が多くなったためです。このたび図書館だよりへの寄稿のお話をいただいて、どんな本を紹介しようかと考えたときに、ここ何年も小説など学術書以外の本を読んでいないということに気づきました。何を書こうかと随分悩みましたが、私が 10 代のころ読んでいた本を思い返して、今でも内容が鮮明に思い出せるほど印象に残っている本を 2 冊、紹介します。

1冊目は、アレックス・シアラーの『チョコレート・アンダーグラウンド』です。この本は、イギリスを舞台に、大人たちが「なんとなくしっかりしていそう」という理由で投票した「健全健康党」が与党になったところから物語が始まります。甘味は健康に悪いという理由で、チョコレートをはじめとする甘いものは所持することすら許されない恐ろしい政策が現実のものとなります。そのような中で、チョコレートを愛する2人の少年が、お菓子屋のおばさんとともにチョコレートの密造と密売を企てるというお話です。この本は約500ページと長編ではあるものの、内容としては小学校高学年からでも理解できる児童書です。児童書でありながら、政策や選挙に無関心であることの恐ろしさ、のような社会的なメッセージも含まれており、高校生や大人でも楽しく読めると思います。そして読んだ後に、チョコレートが食べたくなります。



2冊目は、モートン・ルーの『ザ・ウェーブ』です。この本は、カリフォルニア州のある学校で実際に行われた社会実験を小説に脚色したもので、ドイツで映画化もされました。とある教師が「ドイツ人はなぜナチスの支配に抵抗しなかったのか?」という生徒からの質問に答えるべく、「独裁は現代でも起こりうるのか」というテーマで一週間授業を始めたものの、生徒たちがどんどん独裁の虜になっていき、教師自身も手に負えない事態になってしまうという内容です。集団が意外と簡単に洗脳され、暴走しうることの恐ろしさについて考えさせられます。

この2冊は本校にも所蔵があるようなので、興味を持った人は読んでみてください。私も、久しぶりに図書館で小説を借りて読もうかなと思います。

辞書なしで英語読書ができたなら

図書係 山下 真佑美

皆さんはじめまして。今年の4月から図書係勤務の山下です。外見は黒髪のメガネです。平日の朝から夕方5時まで図書館にいます。どうぞよろしくお願ひします。

さて皆さん、英文を読むときに辞書を使いますでしょうか。もし使っていたとして、それなしで英語をすらすら読めたら格好いいと思いませんか? 図書館を使えば、その夢が叶うかもしれません。英語の学び方に、「辞書なしでやさしくて面白い本をたくさん読む」という「英語多読」というものがあります。ここで言う「やさしい本」には、幼児向けの絵本も入ります。相当やさしいですね。

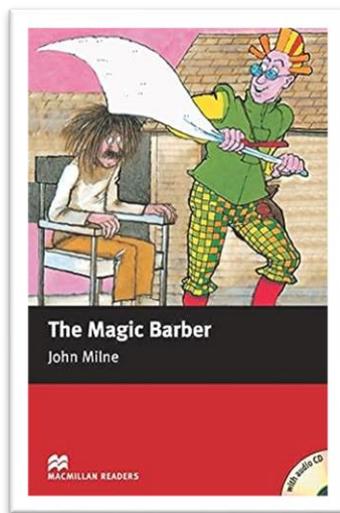
私も学生のころは英和辞典を使って単語の意味を調べ、それを日本語に訳していましたが、大人になってからは辞書を引くことが面倒になりました。

でも英語の勉強はした方が良い気がする、と思っていたところ、この「英語多読」を知り、気が向いたときに細々とやっています。今回はその中で見つけた図書館にあるお勧め本を2冊、皆さんに紹介します。

John Milneの『The Magic Barber』は、16ページの英語の絵本です。お話の舞台は静かな村です。村人全員が長髪で、真っ黒い帽子をかぶっています。暑い日の午後、その村に格安で散髪してくれる Magic Barber がやってきて…というお話です。静かな村の割に村人が「Hooray!」とか「Goodbye hat!」とかよく叫ぶのでテンションが高いなど感心します。それから Magic Barber の髪型がすごいです。オレンジと黄と赤のモヒカンで、さらにオレンジでパイプ状の髪が生えてい

ます。この世界ではこの髪型がいけているようです。16ページの絵本なので、英文は短くやさしく(1文目は「It is afternoon in Crossways.」)、ストーリーはちょっとひねりがきいていて最後まで楽しめます。また本文と全く関係ないのですが、表紙と本文の絵の完成度がだいぶ違います。個人的にはこれが気になって仕方なく、おかげで強く印象に残りました。表紙だけ色塗りが荒い上色合いがきついです。本文の絵は淡い上色合いで、とても綺麗です。ぜひ実際に見比べてみてください。

英語は得意科目、発音もうまくなりたい、という人には、岡山陽子『はじめての多読的シャドーイング』をお勧めします。これは先にあげた「英語多読」に、聞いた音声をほぼ同時に復唱する「シャドーイング」を組み合わせたもの



です。やり方としては、①やさしいものを大量に声を出して読む②分からないところは飛ばす③難しければもっとやさしいものを試す、とあります。やさしいものをたくさん、というところが英語多読と共通ですね。

これまで紹介してきた「英語多読」は、ひとつだけ難点があります。それは「やさしい英語の本がたくさん必要」ということです。ですが皆さんであれば、図書館にたくさんある英語多読本をいくらかでも読めます。CD付の本もありますので、シャドーイングもできます。英語多読本は図書館に入って右手、新聞コーナーの前の丸い本棚にまとまってあります。図書館の本は、皆さんに借りて活用してもらってなんぼですので、ぜひフル活用してくださいね。図書館でお待ちしています。

★★★ 図書館からのお知らせ ★★★

✿新着図書入荷しました✿

今話題の書籍やおすすめの書籍が入ってきていますのでぜひ借りに来てください。

【魔女と過ごした七日間、変な家、ハンチバック、傑作はまだ、ジェイソン流お金の増やし方…など多数入荷!!】

下記のアンケートフォームから図書館に買ってほしい本のリクエストもできますので、よかったらぜひ応募してみてください。

✿ 広島商船図書館で読みたい本アンケートの実施 ✿

広島商船の学生の皆さんは投票をお願いします。(回答期間:8/8(火)~9/30(土))



<https://forms.office.com/r/JbwtWB0yQF>



◆◆◆◆ 編集後記 ◆◆◆◆

今号には、新任の図書館長と先生から、おすすめの書籍や、読書に関する寄稿をいただきました。誠にありがとうございました。図書館にある本が多数紹介されていますので、ぜひ皆さん借りて読んでください。

◆◆◆◆ 編集発行 ◆◆◆◆ : 図書委員会 (令和5年度) : 澤田 大吾(図書館長・一般教科), 後藤田 和(一般教科), 清田 耕司(船長・広島丸), 綿崎 将大(電子制御工学科), 田上 敦士(流通情報工学科)
 ◇〒725-0231 広島県豊田郡大崎上島町東野 4272-1 / TEL : 0846-67-3007
 ◇図書館 WEB サイト : <https://www.hiroshima-cmt.ac.jp/facility/lib.html>